

日 時 令和〇年〇月〇日 (〇)  
授業者 〇 〇 〇 〇

## 1 主題名

いじめを許さない心 「C-(11) 公正, 公平, 社会正義」

## 2 ねらいと教材

### (1) ねらい

正義と公正さを重んじ、誰に対しても公平に接し、差別や偏見のない社会を実現しようとする道徳的実践意欲と態度を育てる。

### (2) 教材名

「卒業文集最後の二行」(文部科学省 私たちの道徳 中学校)

## 3 主題設定の理由

### (1) ねらいや指導内容についての教師の捉え方

誰に対しても差別や偏見なく、公平に接することは、一人一人が社会をよりよく生きるために重要なことである。しかし、人は誰しも好き嫌いの感情を持ち合わせており、偏ったものの見方や考え方から他者を傷つけてしまうこともある。また、周囲で不公正があっても、多数の意見に同調したり傍観したりするなど、正義を守ることに消極的になってしまうこともある。

公平、公正な社会を実現し、正義を重んじる態度を育てるために、好き嫌いという自分の感情を素直に受け止めつつ、相手に対してどのように接すればよいのかを道徳的価値によって正しく判断する態度を育成することが大切である。また、差別や偏見を断固として許さないという態度を支える勇気や強い意志、他者を思いやる心も同時に育てていくことが大切である。

### (2) 生徒のこれまでの学習状況や実態と教師の願い

本学級の生徒は、これまでの学校生活の中で、差別をしたり、偏見を持ったりすることがいけないということは分かっている。また、いじめは人権を侵害し、社会的に許されない行為であることも理解している。しかし、公正、公平な社会を実現するという点に関しては、消極的な態度にとどまっている。例えば、ダメなことをダメと言えず、見て見ぬふりや避けて通る様子が見られる。生徒の実態を踏まえると、公正、公平、社会正義という道徳的価値に対して、理解はありつつも、実現できないという道徳的な問題が考えられる。

そこで、公正、公平、社会正義という道徳的価値が社会をよりよく生きるために必要不可欠であることに気付かせ、不正によって傷つく人の気持ちに寄り添い、強い意志で不正を正そうとする道徳的実践意欲と態度を育てていきたい。

### (3) 使用する教材の特質やそれを生かす具体的な活用方法

本教材は、筆者が小学生の頃の話である。筆者と同じクラスの女の子は、経済的に恵まれず、着ている服も汚かったことから、いじめの対象にされる。いじめにじっと耐えてきた女の子は、卒業文集の最後に「私が今一番欲しいのは母でもなく、本当のお友達です。そして、きれいなお洋服です」といじめに対する自身の思いを書いた。

本時の指導に当たっては、授業当日の朝、生徒に資料を読ませておき、内容を理解させ、授業中の考える時間を確保する。授業では、いじめの被害者の女の子、加害者の筆者、それぞれの立場の心情について共感させ、いじめについて多面的・多角的に考えさせる。女の子の卒業文集最後の二行に込められた思いを中心場面として取り上げる。いじめの卑劣さやいじめによって負った女の子の心の傷の深さについて考えさせることで、公正、公平な社会の実現のために、正義を貫くことの大切さについて深く考えさせたい。

4 学習指導過程

	<p style="text-align: center;">学習活動</p> <p style="text-align: center;">○主な発問（◎中心発問）・予想される反応</p>	<p style="text-align: center;">指導上の留意点</p>
<p>導入 5分</p>	<p>1 本時のねらいとなる道徳的価値について問題意識を持つ。</p> <p>2 課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>いじめをなくすためには、どのような考えが必要か。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時のねらいについて問題意識を持たせるために、いじめに関する新聞記事（ニュース）を取り上げ、いじめが深刻な問題であることを確認する。また、いじめは、小学校、中学校に限ったものではないことを確認して課題を提示する。</li> </ul>
<p>展開 37分</p>	<p>3 いじめをなくすために必要なことについて考える。</p> <p>○ 女の子が、担任に一度もいじめのことを言わなかったのは、どうしてだと思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相談したら、いじめが悪化すると考えたと思います。</li> <li>・担任に怒られたら、いじめは一時的になくなるけれど、時間が経てば、また、同様のいじめを受けることになるから、相談しても意味がないと考えたと思います。</li> <li>・自分がいじめられていることを認めたくなかったと思います。</li> <li>・もしかしたら、そのうちいじめを止めてくれるのではないかと思ったと思います。</li> </ul> <p>○ 女の子は、いじめの加害者に対して、どのような気持ちを持っていたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・嫌だという気持ちを持っていたと思います。</li> <li>・怖いという気持ちを持っていたと思います。</li> <li>・やめてほしいという気持ちを持っていたと思います。</li> </ul> <p>○ いじめられている女の子が「おめでとう」と声を掛けたのはどうしてだと思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめられていたが、筆者のことを友人だと思っていたからです。</li> <li>・少しずつ自分の力でいじめを解決しようとしていたと思います。</li> <li>・笑顔で声を掛ければ、いじめるのを止めてくれると思ったからです。</li> <li>・筆者が高得点だったことが嬉しかったと思います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が資料の内容を理解した上で発問について考えられるよう、教材の挿絵を活用して資料の内容を確認する。</li> <li>・筆者といじめられている女の子の心情について考えさせるために、範読を聞くときの視点を与える。</li> <li>・いじめへの恐怖といじめを耐えるしか選択肢がなかった女の子の心情を捉えさせるために、担任に相談しなかった女の子の行動の根拠を考えさせる。</li> <li>・生徒の本音を引き出すために、問い返しの発問を準備しておく。</li> <li>・いじめに苦しむ女の子の心情を表面的に読み取っている学習状況が見られるときの問い返しの発問</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; margin: 5px 0;"> <p>・相談すれば解決しそうなのに、どうして女の子は相談しなかったのですか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめの加害者に対する女の子の心情を捉えさせるために、いじめの加害者に対する女の子の気持ちについて考えさせる。</li> <li>・いじめに負けず、勇気を振り絞り、筆者と友人として付き合おうとする女の子の気持ちに気付かせるために、「おめでとう」と声を掛ける女の子の行動の根拠について考えさせる。</li> </ul>

- 筆者の中の後ろめたさが消えたのは、どうしてだと思いますか。
- ・いじめについて軽く考えていたからだと思います。
  - ・自分のカンニングがばれずに、ほっとしたからです。
  - ・自分がカンニングしたことを周りにばれないようにしたかったと思います。

◎ 卒業文集の最後の二行には女の子のどのような思いが込められていますか。

- ・いじめが苦しかったという思いです。
- ・卒業前に、いじめていた友達に、自分の気持ちを知ってほしいという思いです。
- ・学級には自分を助けてくれるような本当の友達はいなかったという思いです。
- ・本当の友達がほしかったという思いです。
- ・服が汚いという理由でいじめられたことが辛かったという思いです。
- ・見た目さえ汚くなかったら、いじめられなかったという思いです。

- ・いじめの加害者に対して恐怖心を持ちながらも、友達として付き合いおうとする女の子の気持ちを捉えさせるために問い返しの発問を準備しておく。

- ・女の子は、いじめの加害者に対して「嫌だ」「怖い」という気持ちを持っていたのに、笑顔で「おめでとう」と声を掛けたのはどうしてだと思いますか。
- ・自分だったら「おめでとう」と声を掛けますか。
- ・声を掛ける（掛けない）のはどうしてですか。

- ・「おめでとう」と声を掛けた女の子の気持ちを踏みにじる筆者の行為の卑劣さに気付かせるために、カンニングをしながらもいじめに加わる筆者の行動の根拠について考えさせる。
- ・筆者の行為の卑劣さについて、表面的に読み取っている学習状況が見られるときの問い返しの発問

- ・「おめでとう」と声を掛けてくれた女の子を傷つけることに抵抗はなかったのでしょうか。
- ・後ろめたさがあったなら、いじめに加わらないこともできたのに、いじめに参加したのはどうしてでしょうか。

- ・いじめを受けた女の子の心の傷の深さや誰かに助けてほしかったという切なる願いに気付かせるために、卒業文集の最後の二行に込められた女の子の思いを自分との関わりで考えさせる。
- ・いじめを受けた女の子の心の傷の深さや誰かに助けてほしかったという切なる願いについて、表面的に読み取っている学習状況が見られるときの問い返しの発問

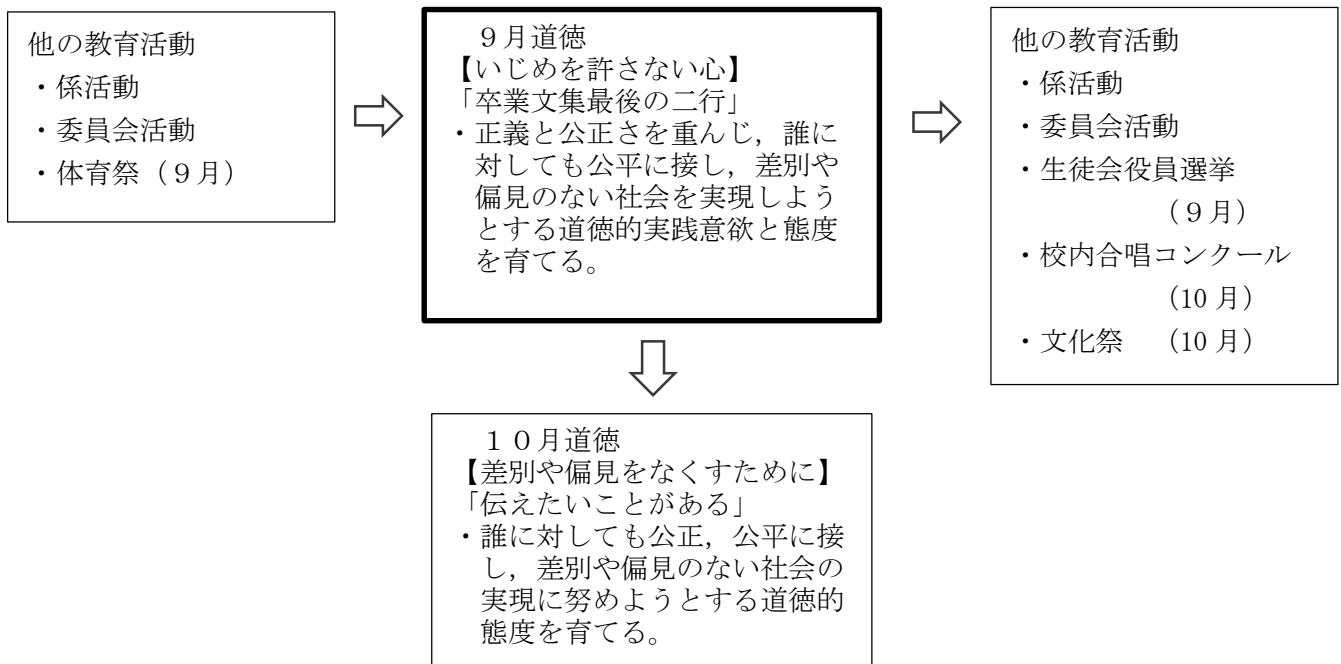
- ・このままいじめについて黙っていることも考えられたのに、T子さんは、どうしていじめに関わることを書いたのでしょうか。
- ・なぜ、一番ほしいのは母ではなく、本当の友達なのでしょうか。
- ・どうして、一行では終わらせずに、二行目に洋服のことを書いたのでしょうか。

終 末 8 分	<p><b>4 自己の生き方について考える。</b></p> <p>○ 中学校の卒業文集には、どのような内容を書きたいですか。昨年度の卒業生の卒業文集を読んで考えてみましょう。</p> <p>○ 本時の課題「いじめをなくすためにはどのような考えが必要か」について自分の考えを書きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手の心の痛みを考えることが必要です。</li> <li>・一人一人が、いじめはしてはいけないことだと真剣に考えることが必要です。。</li> <li>・いじめに加わらない勇気やいじめを止める勇気が必要です。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業文集にいじめのことを書かなければならなかった女の子の心情を捉えさせ、自己の中学校生活の過ごし方について考えさせるために、昨年度の卒業生の卒業文集をスライドショーで見せる。</li> <li>・自己の生き方について考えを深めさせるために、書く活動を取り入れる。</li> </ul>
------------------	--	--

**【評価】**

公正、公平、社会正義について、自分との関わりの中で考える学習を通して、これからの生き方に生かそうとしていたか。

**5 他の教育活動との関連**

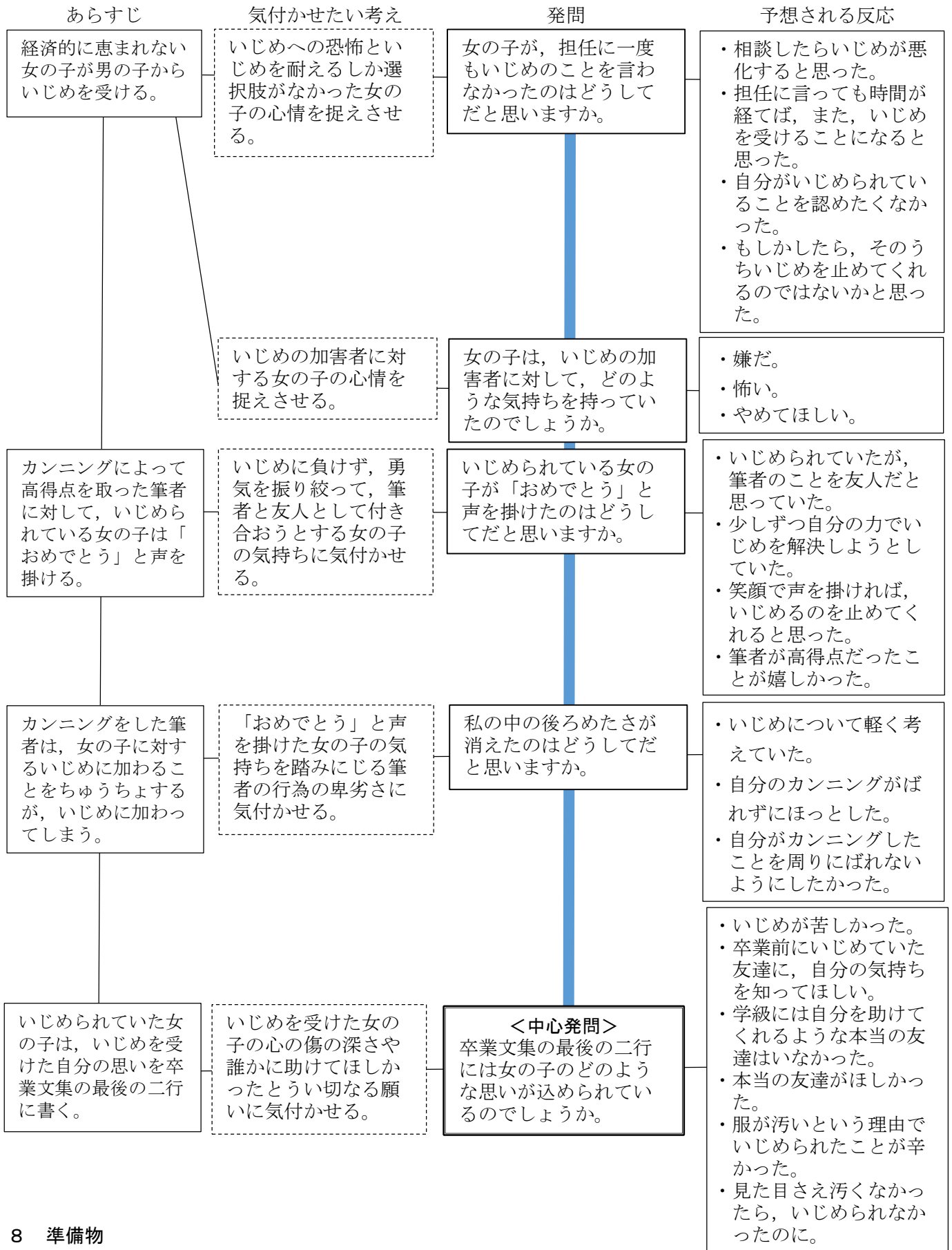


**6 補充・深化・統合の視点【深化】**

「公正、公平、社会正義」という道徳的価値について、生徒は様々な教育活動を通して学んできている。

本時は、公正、公平な社会を実現するためには、いじめを憎み、不公正によって誰かが傷つく状況を正そうとする態度が大切であることに気付かせる授業である。学級内で深刻ないじめが起きていないからこそ、いじめを未然に防ぐ意味も込めて、いじめによって引き起こされる卑劣な行為の意味について考えさせる。本時を通して、「公正、公平、社会正義」という道徳的価値についての生徒の考えを、より一層深めていきたい。

## 7 教材分析・発問構成



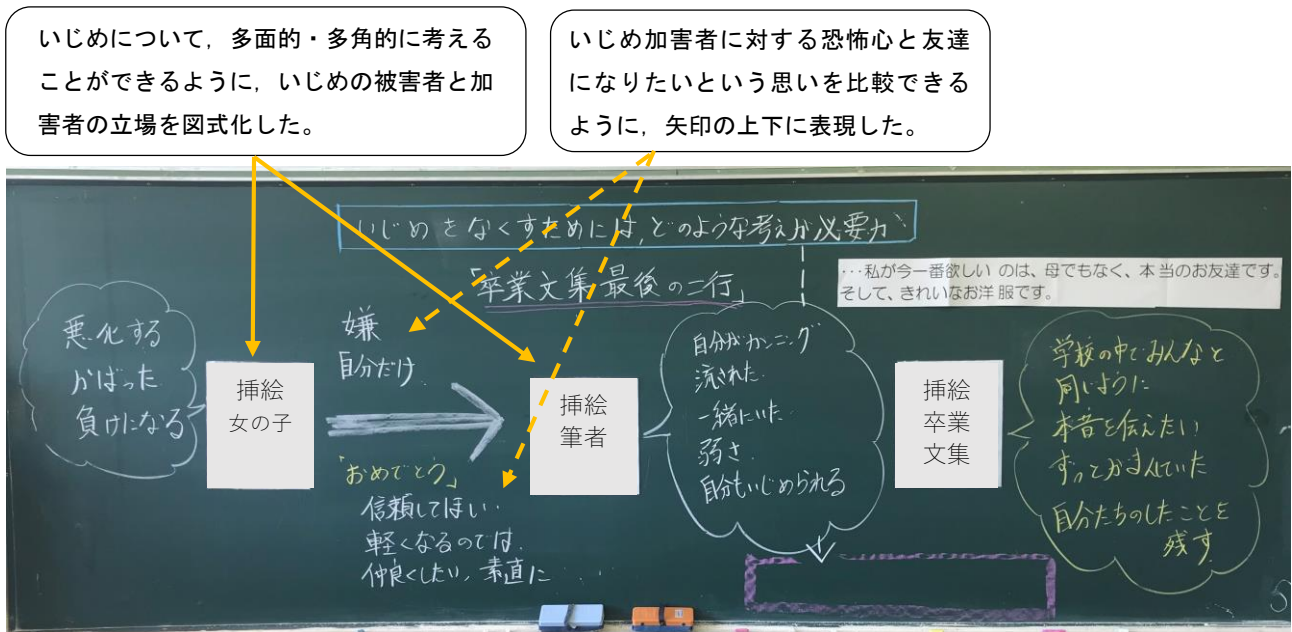
## 8 準備物

教師：教科書、教科書挿絵、学習プリント、パソコン、プロジェクター、スクリーン

生徒：筆記用具

9 実践の記録 (○成果, ●課題)

【板書】



(1) 導入

**生徒にいじめに対する問題意識を持たせるために、いじめのニュースを取り上げた**

いじめは、小・中学校だけの問題ではなく、社会に出てからも向き合っていかななくてはならないものであるという意識を、導入で生徒に持たせたいと考えた。そこで、いじめに関する2つのニュースをスライドで紹介した。1つ目は、中学生のいじめに関するニュースである。2つ目は、職場トラブルの上位がいじめだというニュースである。

○ スライドを真剣な表情で見る生徒の姿や参観者の「導入でニュースを見せたことが良かった」という感想から、導入でいじめのニュースを取り上げたことが、問題意識を持たせるために有効だったと感じた。

(2) 展開

**生徒の考えを深めさせるために問い返しをした**

発問「筆者の後ろめたさが消えたのは、どうしてだと思いますか」について考えさせた際、「友達に流されて、いじめに参加してしまったのではないか」という考えが多かった。筆者の心情の表面的な読み取りにならないよう「後ろめたさがあつたなら、いじめに加わらないこともできたのではないか」と問い返した。

○ 問い返しに対して、生徒から「参加しなかったら、自分もいじめられてしまうのではないかと考えたと思う」「自分の中の弱さがあつたからだと思う」等の考えが出された。問い返しによって、友達に流された背景にある筆者の心情や心の弱さについて考えさせることができた。

**自分との関わりの中で考えさせるために過去の卒業生の卒業文集を提示した**

中心発問「卒業文集最後の二行にはどのような思いが込められているか」について考えた後、いじめに対する主人公の思いを自分との関わりの中で考えさせたいと考えた。そこで、「みなさんは卒業文集にどのような内容を書きたいですか」という問い掛けと合わせて、過去の卒業生の卒業文集をスライドで紹介した。

○ 生徒の感想の中には「私は卒業文集にT子さんが書いた内容を書くことは想像できない」という感想もあり、学校行事の思い出や級友への感謝、自分の成長について書かれた卒業文集を見せたことで、自己と重ね合わせながら、改めて卒業文集にいじめのことを書かなければならなかったT子さんの心情について考えさせることができたと思う。

### (3) 終末

#### 自己の生き方について考えを深めさせるために書く活動を取り入れた

「いじめをなくすためにはどのような考えが必要か」という課題について、自分の考えを書かせた。以下に、生徒の考えを紹介する。

#### 生徒の感想

- ・ T子さんは、いじめられていても、いじめの加害者である筆者に褒める言葉を掛けていて、本当に強いと思った。けれど、もし自分がいじめられたときはT子さんのようにできるとは考えられない。いじめられたときの気持ちは、とても痛いと思う。いじめている方も、時間が経つにつれ、どんどん辛い思いをすと思う。
- ・ いじめを見ている人もいじめをしている人と同じだから、いじめをしている人と一緒にしないで助けてあげることが必要だと思った。いじめている人は自分の気持ちの弱さを捨て、いじめないことが大切だと思った。今日の道徳でいじめていた人たちは後悔していたので、いじめをしてはいけないと改めて感じた。
- ・ いじめをなくすためには、まず、いじめる側の人がいじめられている人の気持ちになるということが大切だと思う。
- ・ いじめられている人の気持ちは、いじめられないと分からないものだと思う。だから、その人の気持ちに近いと思われることを考えて、寄り添ってあげることが優しさなのだと思う。人の痛みを考えなければいけないと改めて強く思った。
- ・ 周りがいじめているからといって、流されて自分もいじめをしていいわけではない。「もし自分がいじめられたら」と思わずに、少しでもかばってあげたり、行動したりすることが大事だと思った。一人でいる人とか、一人で不安そうな人には仲が良い、良くないに関わらず、話しかけてあげようと思った。
- ・ 人を見た目で判断するのではなく、一人一人が、自分が同じことをされたらどういう気持ちになるのかを考えて行動することがとても大切だと思う。
- ・ 服が汚かったり、ちょっと変わっていたりする人も同じ人間。いじめる人もいじめられる人も将来、絶対に悔いが残ると思う。今の人生を悲しんだり、苦しんだりしないで毎日が笑顔で楽しい日々を送れるようにしたい。
- ・ 相手と自分の違うところや不満な部分などを罵ったり、けなしたりするのではなく、互いに認め合い、支え合うことがいじめをなくすためには大切だと思う。
- ・ いじめをなくすためには、他者の外見や内面も含め、自分と違うところがあっても認める広い心や、人と比べたりして自分が上に立とうとしたりする自分の弱い心に勝つことが大切だと思う。
- ・ これまでの自分を振り返ってみると、自分の考えを持ち、他者の意見に流されなかったこともあれば、自分の行動に責任を持てなかったこともある。このように人間には、良いところもダメなところもあるので、そのことを馬鹿にする人は心が弱く、かわいそうだと思った。
- ・ いじめに関して、本当に正しいと人に胸を張って言えるような考えを持ち、それを貫き通すことが大切だと思った。
- ・ いじめをしている人は強いと思う人がいるかもしれないけれど、いじめをしている人こそ、自分の弱い心に負けてしまうような人であると私は思う。みんながこの気持ちを持って、自分に負けない人になればいじめは減ると考えた。また、自分の卒業文集の内容を考えたときに、T子さんの書いたような文章は頭に浮かばなかった。たくさんの人が自分の卒業文集を楽しく書くことができたらいいなと思った。